THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治十九年十一月二十五日

定價金四錢

女學雜誌

第四十三號

毎月三回發行

績文舍

績文舍印

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

目録

〔女學叢誌〕生を重むずべし●〔中外新報〕數件●〔學藝一斑〕幼兒敎育學○植物學一斑●〔對譯〕西洋俚諺○婦人心得●〔列女傳〕寡婦鍛冶工の傳●〔雜記〕芳野拾遺名歌の擧筋書○夫婦大學○賢女金言集●〔新作物語〕海上の奇偶●〔家政要報〕爨婢の事其他相場●〔御伽草〕特別の爵名○急ぐほど遲れる○數學問題○考物の題○前號の答●〔寄書〕活花法○蕃藷略考

◎女學叢誌

○生を重むずべし

英國の滊船ノルマントン號ハ徃ぬる月廿四日纜を横濱に解きて神戸に赴むける途すがら紀州沖に於て不幸にも暗礁に乘りあげ破船したりけるに乘組員たる歐羅巴人ハ（小艇を卸さんとて誤ちて海中に陷りたる一人を除くの外）みな助かりつるに如何でか我が同胞の日本人廿五名の乘客ハ一人殘らず大海原の底の藻屑となり果てつるぞその中には女も男もあり年老たるも若きもありつらん我が家にありて病の床にうち臥し親戚知友に繞圍まれ自づからの命を終るさへ悲しく痛ましきことの限りなるを況して斯く悲命に死せる今はの際に臨みてハ如何なる心地かなしつらん子を思ひ親を慕ひしもありしならん夫を慕ひ妻を戀ひしもありつらんこの世の名殘に今一言いひ置き度こともありしならん今一度逢ひ見たき人もありつらん褥の上に坐し火鉢の灰かきならしつゝあるさへ秋の夜風の身にしむ頃なるに況して浪間のいかにか寒かりけん彼の人々に緣故なき我々すら兎や角想ひ遣るだに痛ましきものを跡に遺れる親同胞妻子にてあらん人々のこゝろハ朝暮に忘るゝ暇もなくていかに悲しきことならんなど彼と思ひこれを考ふるときハ哀れに悲しきことの極みなり苟りにも物のあはれを知りたらんものハ誰かハこの不幸を痛まざるべき左ればこそ府下に重立たる新聞各社ハ相結びて遺族に送り痛弔の意を表せんが爲めに義金を募りたるに世の人ハ我れ後れじと競ひてこれに應ずるもの引きも切らず各社日々の新聞紙に附錄もて掲載するも尚ほ載せ切られざるがごとき有樣なるハ物のあはれを感じ義に勇める心あるハ我が邦人の美質なりとハいへ世の人の慈善心に厚きハ余輩のいとも喜ばしきことなりかし然るに乘組員の歐羅巴人ハ皆助かりて乘客たる日本人ハ皆死せしといふハ如何にも不審しきことにて船長をはじめ以下の乘組員等が自ら助からん事をのみこれ計りて乘客たる我が同胞の日本人をば捨去りて魚腹に葬らしめしハ海員たるものゝ義務を怠りたるのみならず乘客をば人とし視ざるの所業と

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ころいふべけれこれ世の人の憤ほれるも道理にて余輩も共に憤ほる所なりさるにても既に斯く成果てたる彼の不幸なる人々の事ハ今更ら如何に繰言なすも取返し得べくもあらずされバこそ尚ほ更らに悲しく痛ましとハいへ到底ろの詮なきことなれば今より我々同胞ハ復た再び斯る不幸に陥らず斯る人を人とも思はざる無慘の取扱ひを受けざらんことの覺悟なくんばあらざるなり彼の船長等ハ如何なれバ斯く人を人とも思ハざる所業を働らきたるか彼等の行ひ惡むべきハ乃ち惡むべしといへども凡ろ自から生を重むぜずして人の已れを重むぜざるをのミ責むべきにあらず彼の不幸なる人々ハ僅か六七十錢ばかり價の廉けれバとて人船ならぬ荷物船に乘り込ミたるハ自から生を重むぜざりし誤ちなかりしとハいひ難きところあり文明國の人ハ自から生を重むずること未開國の人民よりも厚しといへば自から生を重むずるハまた文明國の仲間入りをなそに必用よして彼の國の人にも重むせらるゝの道なるべし然るを街衢を往復する鐵道馬車に十歳ばかりなる子を連れて乘りたる人に對ひ車掌が二人前の賃金を求めたりとてろの子をば膝の上よ乘するなれば二人前を拂ふに及ばずといひ爭へるを見しといふ人の話を聞きたるが僅ゝの道なりとも可愛き我が子を手荷物と同じことよ思ひなすがごときハ生を重むずるものといふべからず或ハ飽まで酒をのみ大食して虎列刺病ハ彼方よりあろ迯け避くれなど大言して豫防に疎かなる人の如きハ下等の人民とて取るに足らざれども未開の人民ハ生を重むぜざるの譬へにハ引出られつべしされば自から生を重むじてあそはじめて人にも重むせらるゝの道理なれ今より我々ハ我が身を大切に思ひ自から生を重むじ復た他の輕蔑を受けざるの用意なくんばあらざるなり然りとて余輩ハ彼の不幸なる人々の非命に死したるを悲しまず彼の船長等が所業を憤ほらずといふにハあらざるなり再びかゝる悲しみかゝる憤ほりのなからんことをこそ欲するなれ

前號のこの欄即ち七百九丁上段五行目「覗せしめ」の下及び六行目「供へ」の下ともに「ず」の字を脱す同十行目「生れ」の下（　）中の十八字ハ愆なり謹みて正誤す

◎中外新報

○行啓　皇后宮にハ去る十七日午前十時御出門東京鎮臺病院へ行啓遊ばされ便殿に着御近衛都督の宮大山陸軍大臣ろの他の高等官拜謁續いで病室を御巡覽まづ士官病室へ臨御あら

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

せて各室の患者を親しく問せられ各室を殘らず御巡覽の後再び便殿に入せられ御晝餐の〻ち午後一時ごろ同所御出門博愛社病院へ行啓あらせその開院式に臨ませらる同院にては院長を始め當日招待を受けて來會ありし貴顯貴婦人たち各々定めの處に於て奉迎し着御の後暫時御休憩の後式場へ臨ませられぬかくて同社總長の宮には祝詞を演べさせ次で副總長大給恒院長橋本綱常の両君おの〳〵答辞を述べられ總長の宮には院長と〻もに御先導をなし奉りて病室救療器械陳列所等を順覽あらせ便殿にて御休憩の後御馬車に召させて三崎練兵場内にて東京鎮臺病院看護卒の執行する戰地負傷者の運搬演習を御覽ぜさせたり今その演習の大略を記さんに着御あらせしを相圖に戰爭を假演し甲兵と乙兵即ち敵がたと假り定めたるかたと狙撃して前進せるに際り敵がたより打ち込みつる銃丸よ中りて斃る〻狀をなすものあり隊後に扣えゐる軍醫ハ夫々救護の用意をなし負傷者をばズックの運搬器に乗せて後ろの方へ退かしめ軍醫ハ看護卒に指圖して衣服を脱がしめ或ハ血を拭ふもあり繃帶を施すもありて後また一段後ろのかたへ運搬なしられ〳〵充分なる手當を施すの狀を演し畢りたるハ午後三時過ぐるころなりしこの日皇后宮にハ洋服を召させ供奉の女官がたもみな洋装なりしさて我が政府も今度瑞典外十一ヶ國の締結せる赤十字社條約に加盟ありしに付博愛社もこれに加入したるがゆゑにや赤十字の徽章をも佩びられしかたをも多く見受けたり

○皇太后宮　には去ぬる十六日芝公園地内なる能樂堂へ行啓遊ばされ數番の能および狂言御遊覽あらせて黄昏ごろ還啓遊ばされぬこの日御覽に入れ奉つりし中にて最も御意に叶ひしと承はるハ要石といへる謠曲なりしがこれハ水戸烈公の作にて朝廷を尊み國體を重むずるの正義を謠曲に仕組みたるなれバ感ずべきこと多かるよしに聞き及びぬ

○貴婦人の内約　井上松方両伯爵の夫人がたにハこのほど他の貴婦人がたを勧諭して以來公會などへ赴くにハ必らず洋服を着用すべきことに内約せられたりとのことなるが流石は社會の上流にありて世の婦人の模範ともなるべき方々の御振舞にこそ

○青木外務次官の夫人　より去る十五日伊藤、井上、松方、大山の伯爵夫人および獨、英、米三國公使の夫人その他の貴婦人がたと裏霞が關なる官舍へ招待ありて盛んなる宴會を催ほされたるよし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○陸奥公使の夫人　には一昨日英國公使の夫人を麹町なる同公使館に訪はれたるよしなるが追々内外貴婦人がたの交際親密となり行くは何よりのことなり

○總て洋服　華族女學校にては來る十二月一日より教員は勿論小廝にいたるまで總て洋服を着する事に定められぬ

○又　宮中奉仕の女官がたには追々洋服を用ひらるゝに付それ〴〵調製方の注文ありしよし時事新報に見ゆ

○敍任　華族女學校學監下田歌子には奏任二等に同校教授佐野安には奏任六等にまた津田梅子には同校教授に任じ奏任六等(年俸五百圓下賜)に孰れも去る二十日敍せられたり

○高等師範學校　の女子部にて本年までに卒業せし人員は二百卅一人なりと時事新報に出づ

○束髮に改む　海軍々醫の夫人がたにて創設せられたる愛生社にては今度社員一同申し合し日本風の嶋田丸髷を廢して總て束髮と改められたり

○海軍水交社　にては今度新たに食堂中へ幅五間餘長さ八間餘の舞踏場を設けられたるが槻厚板二尺四方位の桝形にて釘なしに張り詰め中々美麗なりと聞く

○建野夫人　大坂府知事の夫人には先きごろより英語の教師を聘して語學をはじめられし處中々の勉強なるがゆゑ餘ほどの上達にて今は一寸したる挨拶ぐらゐは毫しもさし支へずといへば益々上達せらるゝ事あらん

○大坂にての流行　目下同地にて流行する衣服の摸樣を聞くに染色は仙齋、錆仇鼠、紅鼠、利休鼠、海老茶の類また小紋は大小紋、毛万筋、篩鮫の類更紗は紅更紗、天神唐草、紅入友染、籬の菊、時雨に紅葉、紅なし友染、古代有職、総摸樣の類また縞柄は大名筋、千筋、龍縞、雪飛白、横万筋、佛手鉤紐の類大いに流行せりといふ

○ランプ掃除を職業とす　米國のフヰラデルフヰヤにては婦人にてランプ掃除の請負を職業となすもの甚だ多しといふこの婦人は毎日約束をなしたる家に至りランプの掃除をなし反射器、ホヤ、金具、などに至るまで順序を正し心を取り替へ油を注ぎて廻はるものなれども報酬金甚だ瑣細なるがゆゑ至て便利なりとて大に流行せりと同地の新聞に見ゆ

○婦人の屬官　米國ワシントン府に於て諸官省へ出仕する屬官の數一万五千八人の中四千八人は婦人なるがその婦人はみな上等の婦人にして多くは有名なる將官の後家前の各州の知事或は國會議員の令孃たちまたは時として大統領および内閣員

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の親戚なども有り各國を週遊したるもありて皆相應よ教育ある貴婦人なり扨てその職務ハ種々にして年給ハ七百廿五圓より二千二百五十圓までの差ひありその中にも貨幣の勘定方ハ男子よりも熟練し一ヶ月七十五圓を受け取れり尤もこの金額の内より勘定の誤ち或ハ贋金などを知らずして算へ込みたる時ハ之を償はしむる法則なれども贋札などを發見すとハ一寸觸りたるのみにても知る位ゐなり各省とも男女入交り交際上にも制限なく勝手次第なるに同係との結婚なきハ不思議なり然れども男子ハ女子より給金高き例なりと女皇新聞に見ゆ

◎學藝一斑

○幼兒教育學(前號の續き)

若しまた小兒をして他の小兒と交はらしめず一個別々に居らしむるか或ハまた僅か六七人ばかりなる小社會の交際に止まらしむるときハその兒ハ決して必要なる實驗を得ることなく柔弱と恐怖を除くことなかるべし小兒の集まれる仲間ハみな同じ感覺を同じ行ひならざるべからず總て一致して同感を起し相互ひに倚り合ふべき感じを起し希望を一にし同一の報酬を同一に喜ぶの情を起さしむべし然らば教育者たるものハ如何にして斯くのごとく導くべきかと問はんに多くの小兒を集め同一の利益を計り同一の愛情を以て取扱ふの外なかるべし斯く多數の小兒をして相互ひよ結ばしめまたその小兒の各自と教育者と相結び同一の方向に導くべしかくて小兒の心も働きもともに同一ならしめ他の足らざる所ハ一方の小兒をして補はしめ道徳と宗教との心を起さしめ之に由て日々の仲間に起るところの行爲の善惡を判斷せしむることを勉むべしさらバ思想も行爲も感情も各小兒相ひ互ひに相結びて同一の風儀を守り同一の精神と呼吸するに至り相互ひに信じ合ひて各々家庭を戀しく思ふの情を去り小兒のこゝろ再び開達すこれをシュパッシー、オフ、ノムポルス即ち多數同情といふなり小兒を教育するにハこの情を起さしむること專一にしてこれたゞに教師のみならず學校中の交際上より生ずることもまた少なからずさて小兒の教師たるものゝ職務ハこの同情を起さしめこれを導くにあり故に此同情を得んとするハ教師の第一の務めにしてこれを得たるときハ乃ち小兒に教師たるの功を奏したるものといふべし(前號この欄乃ち七百十二丁の下段十三行目「たゞなる完全なる」ハ「たゞ完全なる」の誤植なればこゝに正誤す)

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○植物學一斑(第四十一號の續き)

植物の多く青色なるハ植物の外面よ近き「セル」の中にクロロフヰル即ち緑素といへる一種特別の物質あるに由ることにてこのもの大陽の光りよ逢ひて青色となるなりゆゑに暗き場所に生じたるときハ青色をなさずまた大陽の光りに逢ふも隱れたる部分卽ち根のごとく土中に隱れ居る部分ハ青色となることを更らになし

植物ハ夫々部類〳〵に於て相互ひに多少の關係ありて或ハ兄弟のごとく從兄弟のごとき關係を有せり故に植物界の分類法といひて大別、科、次序、種、屬等の分ちあり

まづ花ある植物と花なき植物と二大別となし花なき植物ハ花あるもの〻ごとく實を生ずるとなけれども實生を有せざる細粒といふものを生せり

植物ハ動物の呼吸するに害となれる氣を吸ひ入る〻がゆゑに空氣を淸潔となしまた動物の食物となり影となり地面を蔽ふて晝ハ大陽の光線の過度なるを防ぎ夜ハ蒸發に由て寒冷の過度なるを防ぎ雨降りて濕ひたるときハ蒸發を速かならしめず殊に人類の爲にハ食物となり薪炭となり藥料となりその他美術製造物などに欠ぐべからざるものたり(第一章總論畢り)

◎對譯

(甲)㊀盲㊁人の㊂妻(は)㊃一の㊄化粧(を)㊅要す㊆莫し

(乙)㊀美麗なる㊁羽(は)㊂美麗なる㊃鳥(を)㊄造る

(この譯ハ次號の雜記欄内に掲ぐべし)

MAXIMS & PROVERBS.

(甲) A blind man's wife needs no painting.
㊀ ㊁ ㊂ ㊅ ㊅㊃ ㊄

〔意譯〕盲人の女房ハ化粧に及ばず

(乙) Fine feathers make fine birds.
㊀ ㊁ ㊄ ㊂ ㊃

〔意譯〕羽が美麗ならバ鳥が美麗なり

DON'T (NASUNAKARE).

Affectionately addressed to Womankind.

DON'T over-trim your gowns or other articles of apparel. Excess in trimming on women's garments is a taste little less than barbaric, and evinces ignorance of the first principles of beauty, which always involve simplicity as a cardinal value. Leave excesses of all kinds to the vulgar.

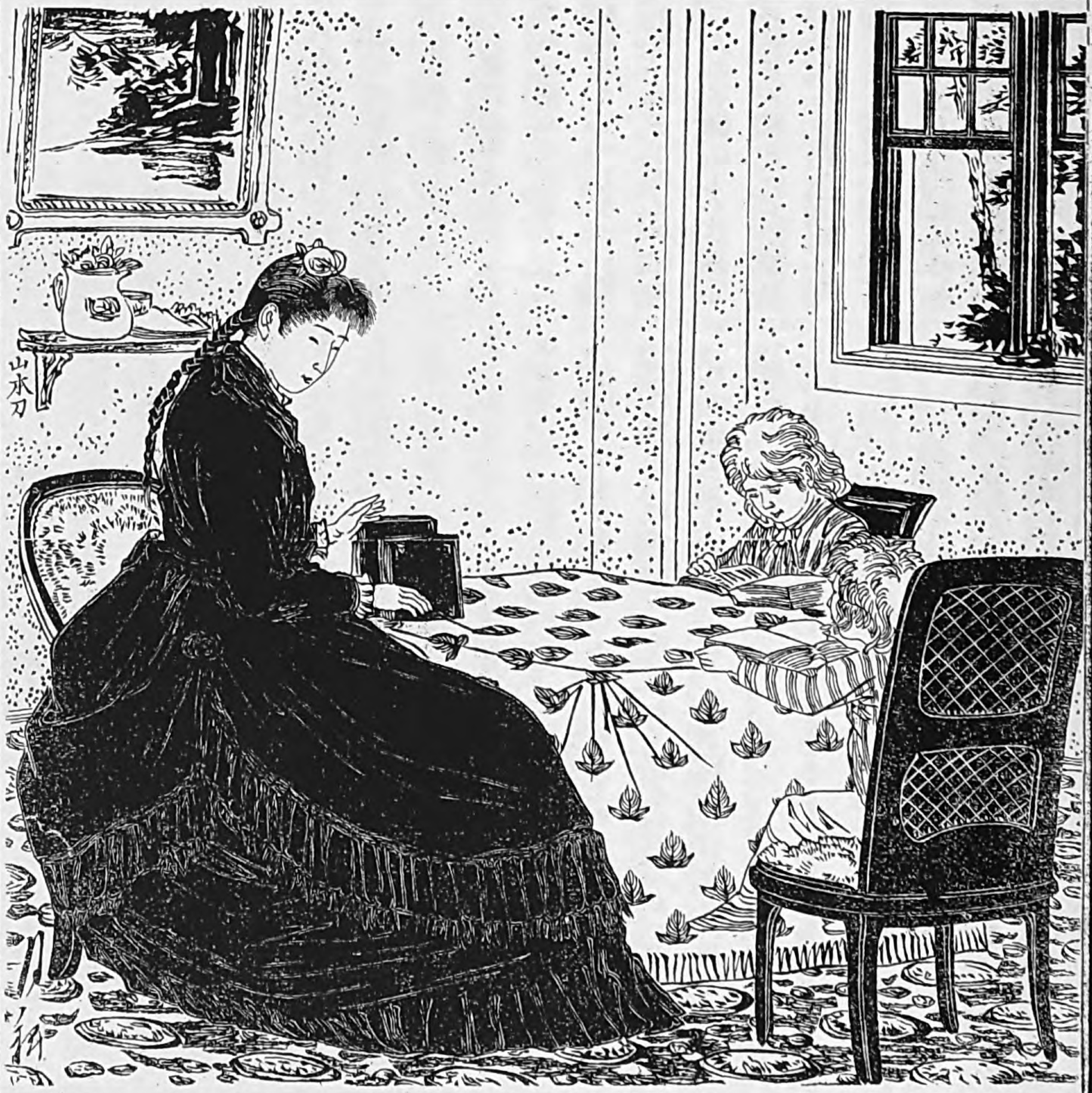
Digitized by Google   Original from CORNELL UNIVERSITY

○寡婦鍛冶工プリンシートの傳

我國人にして外國婦人を娶れるは司位ある人かさらずは學者などに僅にあるのみ我國の婦人にて外國人に嫁せるは身から賤しく家貧しきか又さばかり貧賤ならずとも活計上のもたかに財産の多きにめでゝ慾情より結べる縁多ければにや聞くもうたてきことのみぞ今までの世間には多かりける殊に内外の交際よく通せず彼是の事情よく知られざりし廿餘年のむかしはさる類のみ多かる中に心たゞしく操めでたき奇特なる婦人こそ有りけれ何時の程よりか横濱居留地百七十五番に佛國人メグルといふ人住みけり慶應の末のころ相摸國高座郡深谷村の農高嶋武右衛門の三女りむ(此時廿九年)といふを妾に雇ひぬりむは容貌のいとあてに麗しきのみか農家に育ちしには似ず心ざまいと敏く萬に怜悧かりければ此家に召使はれながら戸主の言語を聞とくるとも知らず又自らの思ふとをいひ顯はすべも知らでは朝夕に不便なるのみならず自然相思ふ情も薄きやうにて遺憾しき限ならましさりとて殊更に語學とやらむいへるもたゞしき學びに就て教へ受けむと請はむもことくし及ばぬ迄も自ら習ひまねびて少しにても聞分けらるゝやうに成もて往かば後々にはまたせむ様もあらむと思ひ定めしよりメグルの物いふは更にも言ず出入る同じ國人の言語までも耳とゞめて聞覺えまた常に往來する通辨の何某にも問ひ聞きなどしてかた語ながらにいひ習ひて笑はれなどするも毫厭ふとなく心懸しかば幾程もなく手近き用便をなすには差支なくなれるにメグルも其志しの殊勝なるに深くめでゝ愛情もひときは厚くあり晝の程は鍛冶の工場にありて多くの職工の指揮に餘暇なけれど夜は一時間ばかりづゝ自ら言語を教しほどに一年足らずにて何事をいひ續くるもよく聞き分けて答ふるやうにぞなりぬる斯て明治二年の春男子を擧けたればメグルの悦びたとへ難く國にある姉弟の許へも報知やりておりむの心ばえ迄もよく告置きまた深谷村の武右門をも招きて悦びの酒宴をひらき打解けたる處にて扨いふやうおのれは國に妻とおきて此處へ來れるにもあらず又營業の道のかくてあらむ限りは本國に歸るべしとも思はず今男の子をも擧けたるにおりむを妾にて置かむは何とやらむ隔意あるやうにて殘念なれば改めて妻には與れられずや姉弟の許へは既にいひやりたれど故障あるべきやうもなし若承引きて賜はらば公に申出して

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

送籍の手續をもなし長く變るまじき契約とも結びてむなど懇ろにいふに武右衛門も何にハ辞まむろハ娘の心ひとつにこそあるべけれ妾とハいへど此方をおきて又他方にゆく心ならば言語まで學びもせじをなど忠誠だちて云へばメグルもいたく悦びて聽て神奈川縣廳に出願し許可を得ておりむの籍と佛國に送りて正妻と定め名をもプリンシートと改めさせ形装も彼國風にかへさせていとゞ睦しく樂しき月日を送るうちにおりむのプリンシートハ又懐妊て男子とうみしのばメグルの悦びいかばかりあらむ推て知るべし斯て後十二年の一月比よりメグルハふと煩ひつきて醫藥の手を盡せども其効なく遂に三月の末つかたに身まかりしかばプリ



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ソシートハ涙ながらに居留地の共葬地に埋葬せしが夫婦睦じく暮す程こそあれ本夫にうき別れしてハ生の親はらからの墓ハしさも一しほ増すならひなれば大抵の婦人ならば遺産をもちて我故郷へとも思ひ立ちぬべけれど心操殊なるプリンシートなればさる僻ことハせず先づ事のよしを佛國の姉弟のもとへ告遣りつゝ幼き者の教育ハ此處にてハ充分に行届くべしとも覺えず本國のさるべき學校に入れて學ばせむとハ亡夫も望ましかるべければ何時にてもよき便あらば賴ゝ参らせたし其をり妾もともに歸るべきが順當なれど此處の營業をとゞめてハ學資の出づべきもとをも失ふ道理なれば猶かくて居らむと思へどそもまた姉上弟君のまに／＼如何ともすべしなどいと細やかに云ひ遣しに総てプリンシートのいふまゝにて異存なしとの答への書狀の來りしかば幼き二人の子供によく其意を得させて十四年の十月十五日出帆のタナイス號といふ郵船に乘組せ其船の機關士の何某とて同じ佛國人にも事の顛末を語りて厚く二人のうへを賴ゝ私の愛情をすてゝ本國に送り遣りつるハ普通の人のなし得べきことかハ奇特なるハ只これのみならず鍛冶の職工をも舊のごとくに引續き集めて職長何某に監督させ少しも怠ることなく萬事に注意しかばメグルの在りし程よりも繁昌して工場も狹隘なるばかりに依賴者の多けゝれば斯てハ營業を受繼し甲斐ありとて今ハ三十一番館に移りしに寡婦鍛冶工と呼れて内外の人に賞賛へらるゝ程なれば手許もいと富裕にて二人の子の學資ハもとより姉弟へも常に金を送りてさるべきところに預け子供の行末の財産まと貯ふるなど一として注意の缺ることなきハ實に類多からぬ婦人ならずや文明を唱へ開化に誇る外國人にて我が國の人に嫁したるも今ハいと多からめど能くこのプリンシートに耻ぢざる人ハありやなしやいまだ聞き知らぬハおのれが耳疎きゆゑにこそあらめ

前號はな女の傳の末の上段一行ふしのまゝハなしのまゝ同六行目起しの傍訓のとこハおこ同七行目溢れハ縊れ十七行目出立せしハいでたゝせし同下段五行目立るハたつるの誤植なり

◎雜記

○芳野拾遺名歌譽筋書（前號の續き）　至

［三幕目］（芳野皇居階下の場）この場ハ軍兵三人皇居の練塀の外にて茶碗酒を飲みながらこの度京方より高の師直および舍

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

弟師泰十万の大軍を以て押よせ來るとの噂とかゝるセリフ色色ありて上手に引込び「都とハ名のみ芳野の假皇居木々の梢も冬かれてこだまゝ響く猿猴の聲もの凄きおき臥も流石一天萬乘の上おき君の行在所とて月卿雲客きらびやかに列を直して坐ならびし威儀嚴かに見えたりけり」の床にて道具幕切て落す前段の隆資をはじめ左近衛大將早俊、右近衛大將兼明、權中納言道順等列坐してゐれ〳〵軍議のセリフあり（この處いセリフこそ作者の太平記始めろの他當時の書志を參へ考へ當時斯くありつらんと想ひる〳〵詞華を集めろのうちにて今日に適しがたきをバ棄て古雅にして俗に通ずべきものゝみを選みて組立たる苦心得意兼ね至りし文章なりと聞けるが餘りに長ければ玆にハ省きつ但だ下に記るを正行の辭の一端と觀るも以てろの妙を概すべし）處へ藏人走りいで〳〵「楠河内守正行朝臣軍事の義により奏聞を願ふよしにて參内いたされましして御坐ります」と執達す正行いで來りいろ〳〵ありたる末ト〵「正行死を決せしことハこれ今日に起りしに非ず父にて候贈三位中將正成湊川出陣の砌り正行を櫻井の驛に召れ後事を托し君の御ため身命を抛つべきよし申し含め東西に別れしが終に湊川戰死におよべり正行ろの時十八歲惜しからぬ命を今に存らへしハ斯るは大事の時いたり命を捐てゝ上ハ我がすめらぎの山なすは恩に報ひ奉つり下ハ亡父が敎訓を守り海より深き惠みに報せんとの心にてはなり今日こゝに死を決せずバ君にハ不忠の臣となり父にハ不孝の子とならん正行が一心各位亮察仰ぎ奉つる」と滔々とのぶるに皆々感嘆なし（隆資）左ほど決心ある上ハ今さら何をか申すべきこの上ハ君前まて敵慮と伺ひ奉つらん」と列座一寸ワタリあり床「イザや御前にまゐらんと列座の公卿一同にうち連れ立ちて」にて段落となる

（同）（芳野山谷間地藏堂の場）この場ハ「行く雲の一トしきりふる村時雨ぬれて岩間の袖濕く寐もせで夢をみよしのゝ花ま宿るる下ぶしも朝を待たぬ冬の日の落て行く方ハ西の空」の下座の獨吟にて前段の主計、梅が枝の通行となり主計ハ上への申し譯に死なんといふを梅が枝止めてゝで死ぬるハ犬死あれバこの度寄せくる京方勢に驅け込みて立派に討死せよと勸め「表てむきハ勘當して內へよせぬとといひ拵へお前に逢ふてこの事を呉々いへと爺さんのいひ附け」といふま主計も心を決し兩人手を取り合ひて名殘を惜む時に地藏堂の羽目の破れより梅が枝の父藤六白髮頭を出して伏し拜むを段落とす」と雖

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

臺一寸元の階下に返りて正行いよ〳〵出陣と決し 床「御前をたつの弓執の矢竹でゝろも龍顏のこれ今生の見納めと悲歎と忍び靜々と歩む宮殿樓閣もけふを限りと見返り〳〵たちもとほれる後のかたより」 隆資出來りてこれを見送り必ず死と急がぬやうとの氣味合のセリフありて兩人上下に別るゝにて段落となる

（同返し大詰）（芳野山奧意如輪堂の場）この場は前段の關の伴吾等居りてこの度の戰ひは敵は大勢味方は小勢尋常の働らきにては所詮勝利覺束なしイザ合戰といふときは一番に切て出で思ふがまゝに奮擊して先度の罪を贖わんとの旨のセリフ渡りて各々死と決して勇むことありて引込むアト如意輪堂の景色よろしくこゝに楠の一家郎等みな〳〵列坐なし居るそれ〳〵セリフありてこの百四十餘人のものは何れも必死の誓ひを立てあれなる御堂の壁板を過去帳となし大將をはじめ一同姓名書きゐるし生きて復たび還らぬ契約云々のワタリありトヾその姓名を記したる壁板を正行に觀そる正行これを視て「豹は死して皮を留め人は死して名を留むと王廉章が最後の一言斯く姓名を記しおくも再び返らぬ即ちゐるし直さまあれなる堂內へ」と命じて堂內に納めしめ（正行）ム、、忠孝二つを全うなせば死そとも今は恨みなし頓て冥府へ行く身の上正行がこの世の思ひ出」と脊負ふたる矢を拔き取り鏃にて扉へ「かへらじとかねて思へば梓弓なき數にいる名をぞとゞむる」と彫りつけてうち返し〳〵これを吟ずるに有合ふ人々心を感じ顏見合せ聲を吞んで抑え居るところに隆資泉紀の兵二万餘人を率ゐて援けとし同じく出陣に及ぶ旨の注進あり引違へにまた辨の內侍內勅を承はりてこゝに來る旨の觸込ありて白木の板輿を舁き來る 床「內侍は君の內命と自ら乞ひし御使ひ因みを結ぶろの人にこの世の名殘惜まんとゐとやかに立出で給ひ上坐にてそれおし直る」內侍は御上には幾重にも正行を股肱と賴み思し召ばくれ〳〵も逸りて進むに過ぎぬやうと有がたき御內勅なる旨をのべまたその進退は如何にし給ふ御心なるやと尋ぬる正行は上の和歌を指示し「戰場の義は幾重にも勅答申し上がたし正行が心中アレを見られよ」內侍これを讀むとありて正行の決心の返すべからざるを知り低頭て詞なし」こゝに前段の藤六いでゝ戰場の供を願ふ正行は色々之を諭して己れの髻を持て本國にかへり吳よといへども聽ず是非とも供をなしたしといひはるこの件種々ありて藤六は終に屈服し髻を持ち千早に返るよ決す處に注進ありて合戰の期近き

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

たる趣きを報ず正行は屹となり「ソレ者ども乘馬を引け」とある相圖に軍兵大勢乘馬を引いで來り皆々出陣の首途勇みたるワタリありトヾ(正行)イデヤ出陣(内侍)そんなら是れが」と寄らんとする(藤六)もし」とこれを隔つる(正行)方々サラば」と床「勇みすゝんで」麾を執つて花道つけ際に至り向ふをキッと見込む内侍藤六名殘をしきコナシ他のもの感ずる思ひ入れにて段落となる(完).

○夫婦大學(第四十一號の續)

人に對して容赦するこゝろなきものは夫婦となりても決して睦まじからぬものと知るべし心持ちよく物事に忍ぶこゝろ即ち我意を犧性とすることを樂しく思ふ心を養成するは日々の交際を愉快ならしむるの法則といふべしこれ一寸したることなれども極めて大切なることにて且つ常に行ひ易きことならざるがゆゑ平生深く心掛くべき事なり

夫婦の間柄はたゞ一致にあり如何に雙方相愛する心の熱度盛んなりとも「耐へつ耐へられつ」といへる金言を學ぶにあらざればその熱氣も忽ちに冷ゆるならざるを得ず夫婦の交情の初め良ければとて盡く眞のよきにはあらずしてその半は既に風波たるものの甚だ多しその初めは如何に中よくとも氣質の合ざるときは永續すべからずして樂を以て歩むべき道とも終には哀しみを以て踏まざるを得ざるべし

英國のダヴヰット、ベアド卿といへるが他の二三の武官と共に敵國の擒となりバンガロールといへるところに暫時幽せられ鐵の鎖鏁を以て繫がれたりと聞くベアド卿の母にてある人は「我兒の鎖鏁りにて繫がれたるを憐み賜へ」と叫びて神に祈りたりといふなれども惡しき緣しにて一生を繫がれたる夫婦あるとば誰しも斯く叫びて憐みを乞ふものなしさるにてもその不幸は暫時鎖鏁りにて繫がれたると惡しき緣しにて一生を繫がれたると孰れか大いなる不幸にてやあるらん一生を惡しき緣にて繫がれたるこそ世に比なき不幸なれ(未完)

○賢女金言集(大坂花のや菀道君の寄稿)

大納言平の重衡の室曰　をんなは貴き賤しき品あまたありとも一すぢにこゝろを守るを第一とすたとひくらゐ高き人にて萬づの道に賢くとも貞心專ばらならざる人は女とはいひがたかるべし

滿子(佐藤忠信の母)曰　人常に外の亂れたる人に内の堅きものなし外の堅き人に内の亂れたる人なし人每に内外は各々別なりといへども内外一つなるべし(完)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎新作物語

〇一躍余命海上の奇偶

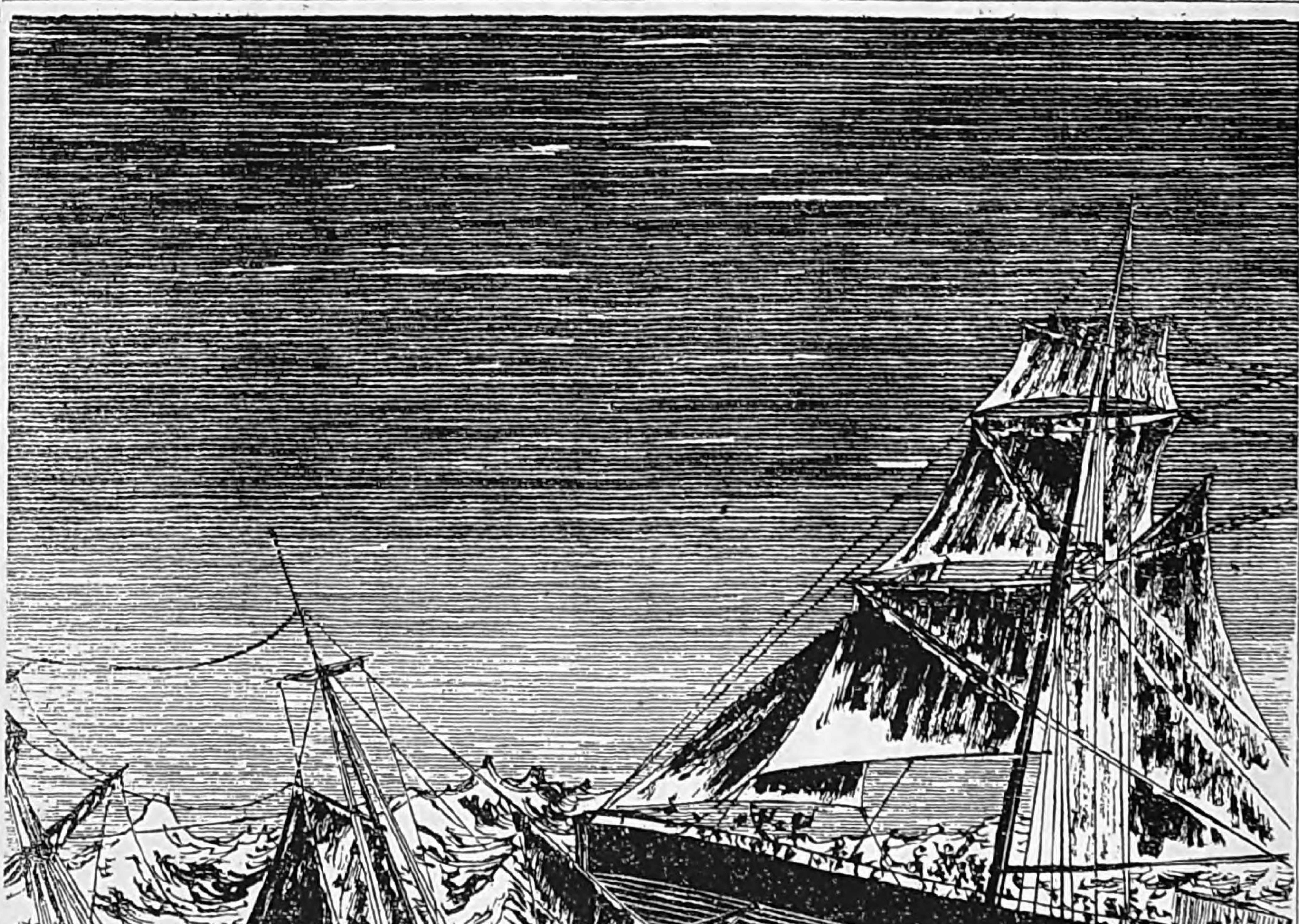
倘來園主人譯

第二回　一跨ぎこの世彼の世の岐れ路

さても武世發魯士丸は、既に二日あまりを駛り來て、Biscay の瀬戸といへる荒海にかゝり、天氣彌増しに惡しく、日暮るゝころとなりては、黒白もわかぬまでに暗くなり、數回の航海なしたる乘客そら、斯く浪風の荒らかりしことはなかりしなどいひかへるほどなりける、斯くて Lovell 婦人は少女の Clara とゝもに船室にありて、荒き浪風のために船の動搖く音の恐さとこゝろ細さとにて、時をも年とばかり思はれつ、たゞ平俯てぞ居たりける、少女の Clara はおどけなくも偶人を手に持ちたるまゝ呻吟き悲みて、狹き船室の中は哀れさを以て充されぬ、Lovell 婦人は胸もとの痛めると押へながら、眼を閉たるまゝ、何ごともいはずてありしが、「アーア、斯んなに苦しからうとは思はなかッたに」と吐息をつき、世に眞の神の在すからは早く彼の地へ到らせ賜へ、この娘を伯父に托するまで、我が玉の緒を續がせ賜へ、我が一生の願事はたゞこのとのみに侍るなり、さはいへ若しも船中にて、果敢なくなり果つることあらんには、遺れるこの娘は如何にかなりなん、我がなき跡までこの娘の世話を托すべき人は、彼の忠實しく語らひつる、Ellison を除きて外には得もあらじ、彼の人よこそ倚るべけれ、兎やせん角やありなんなど、ちゞに心を痛めける折しも、客室附の賄方が室の戸少し開きて頭のみさし入れ、心は優しかれども聲のみはいとむくつけく「如何ですか、心配には及びません、この瀬戸沖を通り越したらば直に靜まります、ナーニ恐いことはない」といふ折こそあれ、膽魂も消ゆるばかり冷まじき音して、船のいたく震動してければ、Lovell 婦人は飛び起きつゝ「アレー何ごと」と叫びけるよ、賄方も今は慰めかね、赧くて肥え太りたる己が顏さへ蒼白て「アー桑原〳〵、何ごとか、往ッて」と口早にいひすて倚るべなき婦人をば其所に殘して、飛ぶがごとくにぞ出行きぬ、跡に婦人と少女は何ごとの起りしにやと、狼狽ながら起つ居つ、出も得やらずありけるに、またも、いと重くて大なるものゝ落かゝりたるがごとき音して、汽罐より漏れいづる蒸氣の音冷眼じく、武世發魯士丸はふたゝび三たび震動きたるまゝ、頓てに進行も止まり果て、船は次第に傾き頽るゝかとぞ思はるゝにぞ、Lovell 婦人も今はたまり得ずして、脱ぎ捨たりし上衣などうち掛 Clara と

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ともに手を携へ、引きつ引かれつ、やう〳〵に階段に上り見るに、他し人はみな出行きたりと見え、甲板の上にいたりたる時は、焚き捨てたる煙筒よりちら〳〵出づる閃光の外、明りとてはなき中を、さながら鼎の沸がごとく、東西南北駈け廻とり、押合ひ突き合ひ、今を限りと叫ぶもあれば泣くもありて、いと騒がしかりける有様なるも、宜なるかな今ぞ生死の境なり、されば本船の衝突したるなりとは問はずも著く、凡そ二十間ばかりにも足らぬがほど隔りたるところに大船の形ありと見え、彼の船に人聲のするもさまで騒がしからぬは、損所もなしと思しく、恰も悪戯して人の苦しめるを他所に見てあるが如きはいと心憎し、武世發魯



七百四十一

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

士丸は船嘴をいたく壊され、震動のために煙筒も倒れて、今はいと暗き眞夜中に、あらき浪風の揺るがまゝ捨られたる状にて、倚るべなくこそ見えたりけれ、Lovell 婦人は如何にせん術もなくて、世には神の助けもなきものか、救はせ賜へと歎き悲しみ、夢路をたどる心地しつゝ、たゞ人々の游艇卸すを眺むるのみ、游艇には我れ勝ちに乘らんとして、叫ぶもあれば祈るもあり、悲しき聲をふり立て騒がしかりける間さへもなく、忽ちに溢るゝばかり人充て、彼の大船さして漕ぎ行きぬ、二たび三たび目の游艇も同じく漕ぎ行きたりしが、如何にかしたりけん、俄かに悲み叫ぶ聲のそるよと思ふ中に、忽ち靜まりかへりたるは、これなんこの世の暇乞とは知られし

さる程に Lovell 婦人は已が顔を Clara の肩に押付けながら涙にくれ「アーア、游艇は一艘もなくなッて、いよく望みの綱も切れて仕舞ッた、オ、Clara よ……可愛い妾の一人の少女、……これ Clara、汝の死ぬると今目の前に見ることとか、悲しいことになッたノー」と身も世もあられず歎きける後背のかたにて Theodore Ellison の呼びかけたる聲に驚かされ、途見ればこの騒ぎに励まされたるものにやありけん、以前の柔和に似もやらず、いと活潑にぞ見えたりける、(つゞく)

◎家政要報

○爨婢の事(牛込潔癖老婦の寄稿)　家を修むるには下女下男を召使ふことに注意し各々その職に規則を定めおきこれを守らしむると肝要なりその中にも爨婢は日々の食事を掌りいと大切なる職掌なれば召使ふものも使はるゝものも別して心得あるべきことゝなりされば初め雇ひ入るゝときによくく平生の心得かたをいひ聞し固くこれを守らしむべしこれ主婦たるものゝ心すべきことゝ思ふが故に聊か爨婢のことにつき心に浮びたるまゝを述べんに爨婢は何事も引受けてその責に當るべく主婦もまたこれを信じて召使ふこと多くそのなすところ規則立ちたるものなれば雇入るゝ時にその年齢性質等を選ぶべし年若きものよりも少し年取りたる方を優れりとすれども餘りに年老いたるは却て悪しく凡そ二十五六歳より三十歳までを最も適當なる年ごろと思ふなれども主婦の年若き家にては主婦より年嵩のものは使ひよからずといふもあらんされども二十歳より若きは便りよからずさてその性質は清潔を好み物ごとに順序ありて綿密なるものを好しとす他の下女下男とても勿論清潔にして綿密ならんこと必要なれども爨婢は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

別して斯のごときものならざるを得ず何となれば實際の經驗に由るに爨婢の綿密ならざるときハ兎角他の召使にその風を移して粗漏に流るゝの弊を生じまた清潔ならざる時ハ食物調理の際如何なることをなすやと知るべからざれバ食物もまた不潔なるかと疑ぐるゝ道理なり何事につきても物事に不規則なる女ハ隨て不潔なるものにして爨婢の不潔なるハ經濟上にても衛生上に於ても最も忌むべきことゝもなりされば爨婢ハ清潔を好み綿密にして萬事に規則だちたるものならざるを得ず衣服なども常に清潔になし食物汁氣などつきたるまゝなるを衣るべからず爨婢の仕事ハ日々うるさく汚れ易き仕事なりといふべけれども心掛と取扱ひやうにより強ち我が身を汚くせずとも働らくこと出來るべし爨婢の衣服ハよきものを用ふべしといふにハあらず如何なる襤褸にてもたゞ清潔になすといふ夏季の單物などハ別て洗濯となし成るべく汗の嗅のなからん事を勉むべし總て爨婢の衣る服ハ筒袖となしおくを最も便利となし冬季にても單物と上張に衣るをよしとすこの上張および前掛けなどハ西洋流に白色のものを用ひしむるときハ汚れの目立より自から清潔を好むに至るべしといふものあれどもそハ人々の心に任すべき事なり衣服を筒袖となさしむることハ極めて必要なり袖のある衣服にてハ働くに當り綿密ならんこと六かしく食物などに袖の觸るゝことありて甚だ不潔なるものなり(以下次號)

◎伊勢崎織　ハ上州伊勢崎にて織出し玉糸を縱となし熨斗糸を横となし染色にハ正藍を用ひたるが故に幾度洗濯するも地合の損することもなく色合も變ることなしといふまた近頃東京職工學校の卒業生を雇ひ入れ西洋染のものをも織り出したるに從來の染色に勝るも劣ることなく地合ハ丈夫なるが爲に甚だ得用向きなりと聞く

◎白米小賣相場　今月十九日改正にて一圓に付一等米一斗三升五合、二等米一斗四升、三等米一斗四升六合、四等米一斗五升六合、五等米一斗六升九合

◎御伽草

○特別の爵名

今ハ米國大統領の奥方となられたるフオルサム孃が婚姻の前かた佛國巴理にありし時ラモット婦人といへるが宴會を催はしたるに招かれ同じ席に連れる或る貴婦人がフオルサム孃に對ひ貴孃には程なく大統領の奥方となり給ふとか聞きたるが

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

さては此上なき御榮えとこそ申すべけれ然るに米國にては歐羅巴のごとく公爵との伯爵との申す尊稱はなくて身は大統領の夫人たるも尙ほ平人と同じくミッセス、某（某の御家さん）と申すに過ぎざれば之ればかりは口惜うこそ候へといひたるよフオルサム孃はさればにては何爵など申すはたゞ世の人の呼ぶ名のみよては候へども此度大統領は妾に特別の爵名を與へてはといひて霎時猶豫たりければ並居る人々はさては如何なる爵名をか與へられつらんと思ひ居たりしに彼の孃言葉を繼ぎ夫は外ならずクレヴランド氏は今より妾とば必ずダーリング即ち可愛き妻ところは呼び候へといひければ人々實にも女と生れては何れの國にてもこれに上越す尊稱はあらじと感じ合ひたりとぞ（スチユーデントに據る）

○急ぐほど遲れる　　散遊亭　園蝶　述

或る貴いお方でございませう馬に乘ッて旅を遊ばしました恰ど十二時ごろに宿場へお着きになりましたから或る茶屋で中食を遊ばしまた馬に召してお出掛けにならうとする時馬丁が「旦那様鐵踏の釘がぬけて居りますから此宿で直して參りませう」と申しますと旦那は「ナーニ釘は拔けても六七時間は保つから宜しい、今日は急ぐから」とそのまゝヒラリと飛び乘ッてお出掛けになりましたさて午後四時ごろにまた或る宿場でお小憩になりましたから馬丁は馬に水を遣り踏を見ますると何うも保さうもないから「旦那様踏の釘がどうも」と申上ますを聞きも畢らず「ナニ宜しい今日は殊の外急ぐからこれで宜しい」とまたそのまゝお出掛けに相成ますと頓て馬が足を痛め初めましたが旦那はこれにも構はず急ぐ〳〵と御意遊ばしてお出になりましたスルと馬は愈々足を痛めまして一足も進むことが出來なくなり到底其所へ倒れましたから旦那は止むを得ず馬より御りてポッ〳〵御拾ひでお出になり大層道が遲れましたと申すことでこれが急げば急ぐほど遲れるといふお噺しでございます

○數學問題

（甲）猿猴七匹あり手と手を握り合ひて厓上より水中に映れる月影を取らんとするに水面に達せざること三尺三寸なり而してこの猿猴はいづれも躰の幅七寸七分にして手の長サは各々三尺三寸なりといふ然らば水面より厓上までの高サ幾何なるや

（乙）木綿一反と二丈七尺としその價五十四錢なるときは九尺五寸の價何程なるや

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

○考へもの〻題

(甲)左の歌ハ本邦歴史中誰を詠せしや

こその葉の花ハ都にとゞめ置て身をばまかする須广の浦風

(乙)左の歌を魚の名十ゟ解し給へ

雨降りて河も水まそあちこちに舟人たひしこされさそらし

(以上の問題の答ハいづれも十二月十日までに本舍へ届くべきものとす其後に届きたるものハ本誌に掲げず)

○第四十一號數學問題の答

(甲)

6:5
4:3
$4\times6=24$
$5\times4=20$
$3\times5=15$
$24+20+15=59$
$20473:59=347$
$347\times24=8328$
〃 $\times20=6940$
〃 $\times15=5205$

甲八千三百廿八圓
乙六千九百四十圓
丙五千二百〇五圓

(乙)

24丈=40
$\sqrt{56^2-40^2}=\sqrt{3136-1600}$
$=\sqrt{1536}=39,19183+$

答三十九間一九一八三餘

(解答者)(甲)和歌山戸田梅藏、大坂近藤由三、東京中村のね、(乙)群馬太田悅三、埼玉吉川大藏、同片山太郎、京都大塚三郎

◎寄書

○活花に水を揚ぐる法　水戸上市　森雪

活花ハ切り口を燒き活けるが普通なれども萎み易し然るに或人の說に花瓶の中に土塊二三個を入れ濁水となし活ける時ハ數十日間萎むことなしといふ妾當年菊花を試みて好結果を得たり插花に心ある方ハ試み給へかし

○番藷略考　考古學人

我が瑞穗の國ハたゞに米麥に富むのみならず芋の種類もまた極めて多きが中に就きて番藷ほど愛で嗜まる〻ハあらざるべし今その我が國に傳はりたる起元を考ふるにその初め番藷の種子ハ元呂栄國より出たるものにて明の万曆年中はじめて漢地に入り暫くありてまた琉球に渡り元祿十一年の秋琉球王これを我が薩摩國に傳ふ是れ番藷のわが國に入りしはじめなりしかして寶永元年薩摩より肥前の長崎に傳へ享保廿年漸く江都に入るされど未だ人民一般の口にハ入らず幕府僅かにその種を小石川の御藥園に栽るのみなりしが元文年間より漸々人民の口に味ひ延享年間にいたりてハ川越在より多く之を輸入し來り石州などに至りてハ井戶といふ人多くこれを栽えつけ竟に今の如く全國に蔓延したりよりて石州にてハ往々飢饉にあふとありしもこの藷ありてより以來常にその災を免る〻と以て今に井戶氏と祭りて所々に碑を建て懇ろにその跡を弔ふといふこれ番藷の我が邦に傳はり來し大略なり記して貴舍に寄せ以て餘白を假らんとす

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

廣告

田中從吾軒先生著
令弟　小永井小舟先生評
門人　三木貞一校

○警醒鐵鞭

天堂記　地堂記　魔界記

木板精到半紙摺唐本仕立
全一冊　定價金卅五錢
郵税不申受

從吾軒先生ハ佐倉ノ宿儒也經史ノ蘊奧ヲ極メ詩文一世ニ傑出ス然ドモ放縱高蹈自ラ隱晦ス嘗テ戲ニ警醒鐵鞭ヲ著ス言ヲ天堂地堂魔界ニ托シ以テ平生ノ蓄積ヲ發ス罵詈痛快忽ニシテ神感シ鬼哭シ忽チニシテ天笑ヒ人泣ク鐵鞭ヲ以テ尺餘ノ珊瑚ヲ一碎スルガ如シ是レ先生ノ一遊戲ニ過ギズト雖ドモ趣向命意一句一章ノ苟モセザル以テ文章家ノ龜鑑ト爲ベシ弊舗之ヲ請ヒ且令弟小永井先生ノ評ヲ得テ今度上梓賣出ス世人一讀シテ未ダ斯文ノ地ニ落サルヲ知レ

「チユルス、ウエルチ」氏原著
三木貞一君　高須治助君　合譯

○拍案驚奇　地底旅行　再版

石版密畫入

全一冊美本洋製　舊定價金九十錢　改正原價金八十錢

彼の地小說家の泰斗たる「ジユルス、ウエルチ」氏が一世の學嚢を縊き博物學測地學に基き噴火の山洞より大地の中底に入り地球の内部を縱橫に旅行し上代より存在せる珍草異木を探究し今代に絶滅せる怪禽猛獸を索し毎回の奇想殆ど天外より落つ素より學術上大活眼を開きたる浩瀚の書なるに之を結構絶妙の小說に綴りたるなれば其奇書たるハ言を俟たず且つ寫眞石版の密畫數多を加へ一々禽獸草木の珍奇を示せるハ原書と毫厘を違へず去れば江湖の愛顧厚く既に數千部を賣盡したれバ今回御禮旁訂正の上**再版**致し更に定價を減して發賣仕れバ何卒舊に倍して購讀を給はらんことを乞ふ

東京京橋區三十間堀

九春堂

教育雜誌

毎月二回發兌●正價一冊金八錢●全國中配達無料●前金の外一切遞送せず●郵劵代用の向ハ遞送費御自辨●割引半年分前金九十錢●一年分金一圓六十八錢●二年分金三圓十二錢●本月二十五日第十八號刊行●目錄合計二十五件

本誌ハ青年學生の智德を發育するを以て目的とす●記載種目ハ●官令摘錄●社說●學術（地理、天文、修身、法教、政治、法律、論理、心理、修辞、衛生、理化、博物等）●技藝（書畫、音樂、遊戲、農業、工業、製造、器械、園藝等）●傳記●史談●歌俳詞曲●詩文●漢學講義●隨筆●懸賞論文●隱語寓言●算術●復文●格言●學事質問●穎才藝苑●中外雜報●羅馬字談英學獨修（リードル獨學、地理書獨學、會話獨學等）等にして毎號處々密畫を挿入し印刷鮮明、紙質上等世間實に其比を見ざるの良雜誌なり

本誌ハ夙よ開卷有益、學生必讀の好評を賜ハり益勉强紙面改良仕候處先頃より

内省より御用被命弊社の光榮之に過るものなく爾來全國より御用**明宮様**の御爲御買上遞日增隆盛相成候に付てハ尚ほ此上とも好材料を聚集し江湖諸君の御愛顧に相酬ひ可申中小學校等より引續御注文を蒙り社ゝ御向ハ陸續御用向の程厚望の至よ奉存候何卒家に修學の男女子あらせらる

教育雜誌
學藝雜誌　**發行所**

東京淺草區南元町廿四番地

贊育社

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵税壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同　拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同　二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同　三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同　四拾錢

但シ東京十五區内郵税不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵劵代用ハ壹錢切手よて一割增し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み共爲替劵を本舍へ御送附可被下候　但し東京十五區内ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所　東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地

績文舍

持主兼印刷人　松本義弘
編輯人　初鹿野鋕五郎

東京芝區愛宕町一丁目三番地	大賣捌　修正堂
同　神田區淡路町	同　巖々堂
同　神田區佐柄木町一番地	同　東海堂
大坂備後町四丁目	同　岡嶋文店

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY